



福島原発死亡事故相次ぐ

第1・第2作業員計2人犠牲

東京電力福島第1原発でタンク上部から協力企業の作業員が落下した事故があり、東電は20日、この作業員が同日未明に死亡したと発表した。第1原発での作業中の死亡事故は、昨年3月に土砂の下敷きになって1人が死亡したのに続き2件目。また福島第2原発でも20日、協力企業の作業員が死亡する事故があった。

東電社長「痛恨の極み」

双葉署によると、第1原 町下北迫西町、会社員釣幸発で死亡したのは福島県広野 雄さん(55)で、死因は多発

作業員の死亡事故が相次ぎ、臨時記者会見で謝罪する(左から)東京電力の石崎芳行福島本社代表、福島第1原発の小野明所長、第2原発の設楽親所長。20日午後、福島県楢葉町の「ツインレジ」

外傷。

東電によると、釣さんは19日午前9時10分ごろ、雨水をためるタンクの点検作業中、天板にある穴から約10メートル下のタンク内部に落下した。落下防止の安全帯を腰に装着していたが、使われた形跡がなかった。

第2原発では20日午前9時半ごろ、廃棄物処理建屋と呼ばれる建物内で、福島県いわき市平城東、会社員新妻勇さん(48)が点検台の機具に頭を挟まれ死亡した。

東電は20日、福島、新潟、東京をテレビ中継で結んだ臨時記者会見を開き、姉川尚史

原子力・立地本部長が「重大災害が続く大変申し訳ない」と謝罪。第1原発の小野明所長は「二度とこのような悲劇を起さないように誓う」と述べた。

第1原発では21日の全ての作業を中止し、手順の確認や構内に危険箇所がないか総点検する。

広瀬直己社長は経済産業省を訪れ、高木陽介経産副大臣に「大きな事故が連続し、経営トップとして痛恨の極み。大変申し訳ない」と陳謝した。

高木氏は再発防止に万全を期すよう求めた。